

を追求しえた8例について、最大心拍数・PFIを比較すると、最大心拍数は経過と共に減少傾向にあり、PFIは退院時より6カ月後で増加、6カ月後と12カ月後ではほぼ同程度であった。軽・中等症の急性心筋梗塞患者の心機能は、退院時より6カ月後でかなりの改善傾向を示し、12カ月まで徐々に改善すると考えられる。

II・3-4. 心筋梗塞の予後に関する研究

久留米大学第三内科 高山 一成 田代 寛美
荒川 大郎 板家 研一 戸嶋 裕徳
佐賀医科大学 木村 登
九州工業大学 上松 弘明

〔目的〕我々はすでに、心筋梗塞のリハビリには積極的運動負荷療法が有効であり社会復帰に大きく影響することを報告してきたが、本法による予後の改善という現象の構造は、本法の特性要因に反応したパターン、または測定した特性値を総合するための多次元的な方法論により解析されるべきである。そこで、従来の結果より知られる事実を基に、本法にまつわる諸因子との相互関係を総合的客観的に評価することを目的とした。

〔対象方法〕対象は昭和33～49年末までに久留米大学第三内科を退院した心筋梗塞患者より at random に選んだ生存67名、死亡35名（ほとんどが心臓血管死）の計102名、計算に用いた説明変量は、糖尿病素因、入院時重症度、入院時血圧、飲酒習慣、年齢、入院中血清総蛋白 A/G 比、総コレステロール、 α/β 比、運動負荷限界の各改善度、退院後食事療法の順守度（蛋白、塩分制限、総合判定）、喫煙習慣持続の有無、退院後運動療法順守度、の計15で、方法は、電算機による主成分分析、判別分析結果と従来の生存曲線による検討結果の比較である。

〔結果〕入院中の運動能力改善の差（マスター S 以上、以下）からみた生存曲線では、加齢や入院時重症度の関与が考えられるが、関与の程度は示し得ない。しかし、これらの因子を含む計15の因子による計算結果から、生存死亡の両群の経年的内部構造に明らかに異なった部分を認め、約80%の確率で両群を判別できた。入院中の運動能力の改善という因子は、退院後の食事療法の順守という因子と共に、その他の因子の約2倍の寄与率で予後に影響した。

- 4) Study on Prognosis of Myocardial Infarction.
K. Takayama, H. Tashiro, D. Arakawa, K. Itaya, H. Toshima : The 3rd Department of Internal Medicine, Kurume University School of Medicine.
N. Kimura : Saga Medical School.
H. Uematsu : Kyushu Institute of Technology.

〔まとめ〕心筋梗塞のリハビリにおける積極的運動療法の重要性に関し、一応の成果が得られその有用性を再確認したが、本研究にはさらに多くの症例と多くの因子による検討を重ねることが必要と思われる。

II・3-5. 虚血性心疾患と運動負荷所見の予後について

順天堂大学内科 宮川 政久 近藤美智子
北村 和夫

順天堂大学体育学部スポーツ医学 南谷 和利

虚血性心疾患患者に施行した運動負荷試験の結果が予後の判定にどの程度役立つか、若干の検討を試みた。対象は発症後1年以上経過し本院外来に通院していたもので、男子53名、女子2名、合計55名であり、いずれも再発した心筋梗塞による2例が死亡している。

従来より行っているトレッドミル負荷方法で、急性心筋梗塞は退院時、狭心症および陳旧性心筋梗塞は初回の負荷試験の時と現在までの所見について比較した。心拍数、MET、pressure-rate product および心電図所見の変化は種々であり、症状の改善にもかかわらず一様の経過をたどらないことが判明した。精査の目的で30例に冠動脈造影を行った。冠動脈危険因子の程度と障害枝数とは必ずしも平行せず、また、E.F. は34～88%と程度は種々で、予後とは必ずしも一致しない。これらのうち10例にA-C bypass手術を施行し、現在全例が平常の生活に復している。

次に予後の異なる2例を供覧した。第1例は、約10年来胸痛を訴え、10%、2.5 MPHにてトレッドミル負荷を行い、負荷中著明なST変化と胸痛のため中止、その後冠動脈造影にて著明な3枝病変と判明、E.F. 71%と良好であるため、A-C bypass術施行、術後同量の負荷にて全く変化なく、平常の生活をしている。第2例は陳旧性心筋梗塞の再発作にて来院、0%、3.0 MPH、5分間の負荷試験にて著変なく、冠動脈造影にて著明な3枝病変があり、E.F. 27%と悪く、手術不適とされ、内科的治療中、再発作にて入院、重篤なため、0%、1.0 MPH、5分間の負荷を行い、著変なかった。退院後1976年10月自宅にて急死した。

すでに報告されているように、心筋梗塞では、負荷心

- 5) A Prognostic Study of Ischemic Heart Disease and Exercise Test Findings.
M. Miyagawa, M. Kondo, K. Kitamura : Juntendo University School of Medicine (Cardiology).
K. Minamitani : Juntendo University School of Physical Education.